

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要

人口：161人
 高齢化率：42.6%
 生活の中で住民同士の繋がりによる助け合いがみられたり、集落行事がさかんで、子どもから高齢者まで一緒に参加されている。



取組のきっかけ

・以前から、近隣の地域では見守り活動に取り組まれていたことをきっかけに、住民同士で自分たちの集落でできることを話し合い、見守り・生活支援を行う活動グループが発足し、現在はメンバー27名で活動を行っている。

取組の目的

- 高齢者の見守りや生活支援
- 高齢者の外出のきっかけや交流の場づくり
- 次世代と交流の場づくり

これまでの経緯

年・月	出来事
令和2年12月	活動に向けての話し合い
令和3年1月	住民主体で見守り・支え合い活動を行うグループが発足 毎月1回定例会を開催し、活動報告や困りごとの共有しながら活動している。
令和3年7月	地域の子どもたちへチキン南蛮を手作りし60食配布
令和3年12月	子どもたちと一緒にマコモの葉でクリスマスツリーを手作りし、高齢者宅へ配布
令和4年6月	手作り赤飯を高齢者へ配布
令和5年4月	活動協力者が新たに4名加入 ゆらい場の設置
令和5年8月	子どもたちと旧暦七夕飾りを作成し、高齢者宅へ配布

活動の概要

活動内容：生活支援（ゴミ出しや自宅の掃除）、ゆらい場「ゆらい処はまゆう」の開催、夜間に火の用心ウォーキングによる見守り、交流イベントの実施



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

[行政担当者としての役割]

- 地域包括支援センター発行の「どうくさだよ」にて活動の周知
- 世話焼きさん（地域福祉推進員）との情報共有

[SCとしての役割]

- 活動状況の把握・情報発信
- 地域が自発的に活動していることの把握・連携と協力体制づくり

現時点での到達点（効果・課題など）

[効果]

高齢者とゆらい処でお茶会・交流をすることで外出のきっかけづくりができ、社会参加の場となっている。
 子どもの下校に合わせて、声掛け、見守りができている。交流イベントの開催で地域に活気が出た。

[課題]

以前からのおつきあいで移動支援等ができていたが、新規での依頼があった場合の課題が予想される。